

図-9：河床勾配縦断面図(肱川)

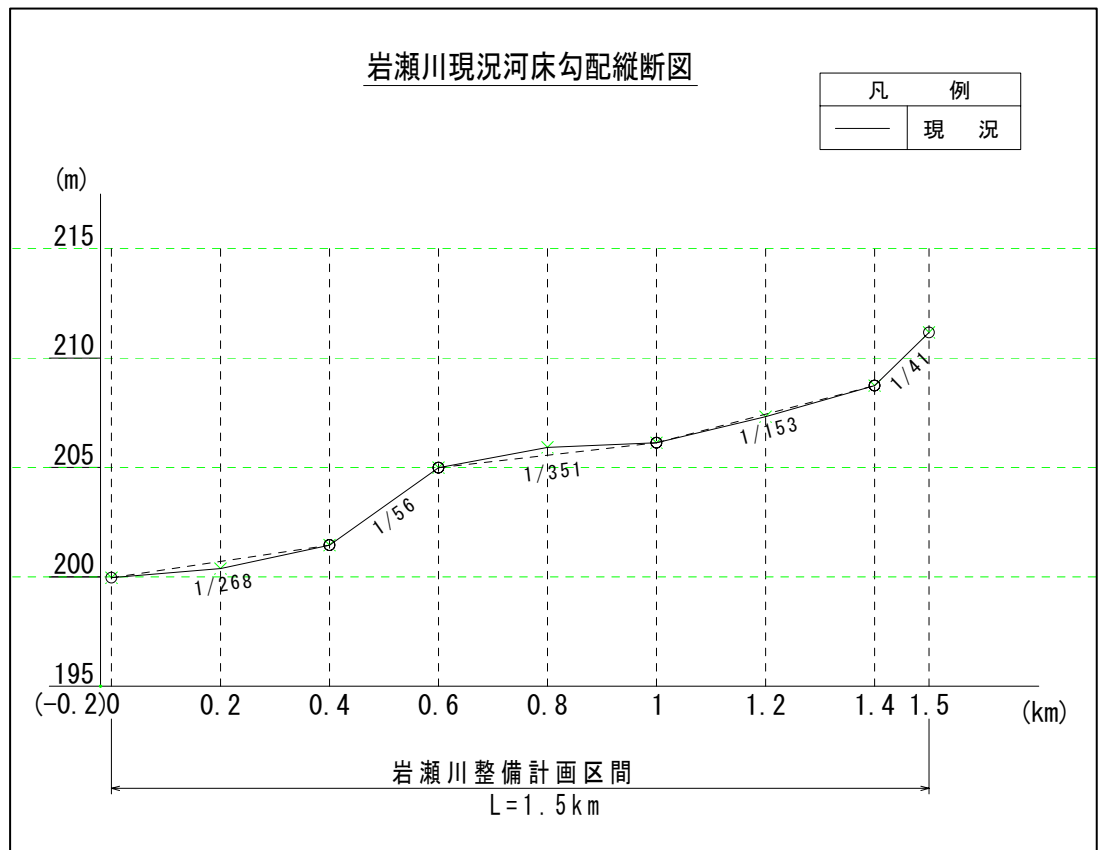
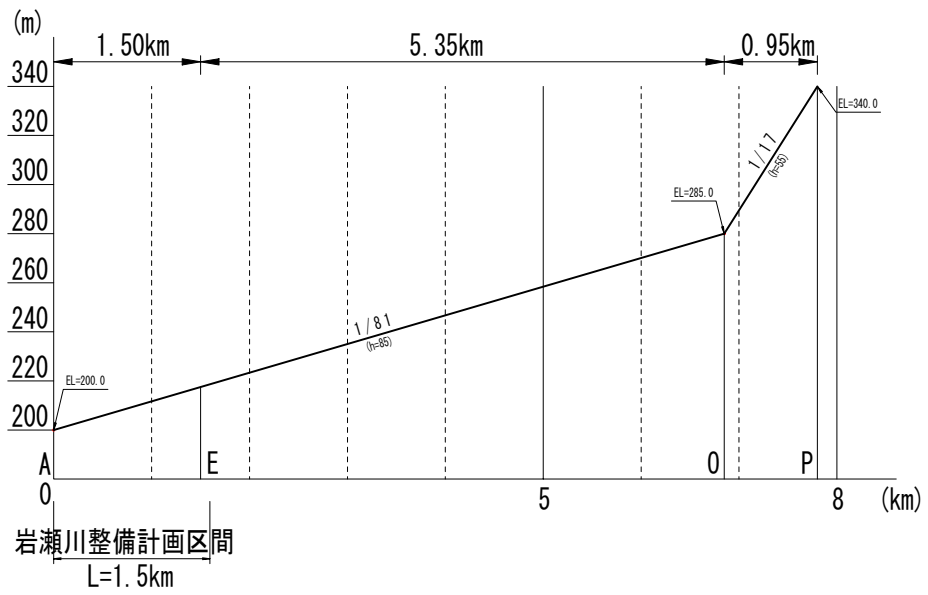


図-10 : 現況河床勾配縦断面図(岩瀬川)

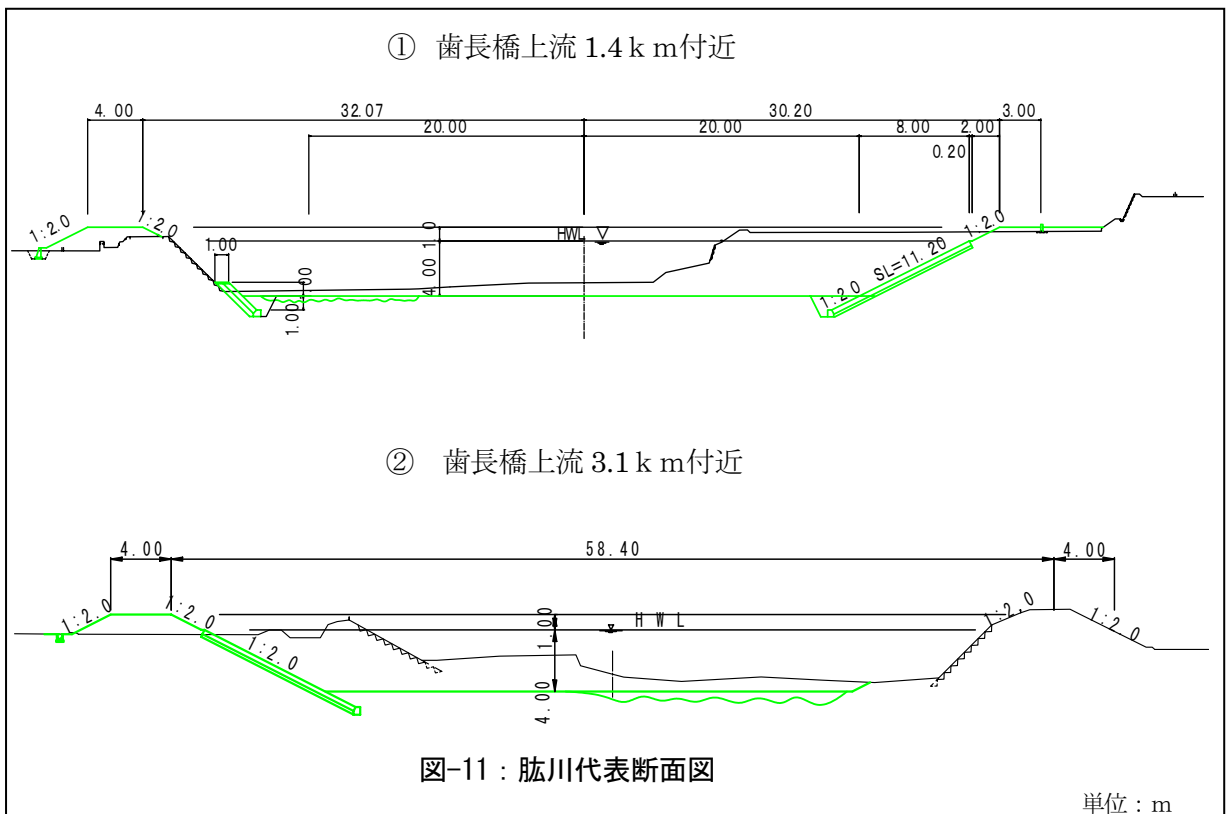
(1) 肱川：歯長橋上流 55m 地点～岩瀬川合流地点

延長：L=4.12km

整備内容：

肱川では歯長橋上流 55m 地点より岩瀬川合流地点上流までの間において  $850 \text{ m}^3/\text{s} \sim 820 \text{ m}^3/\text{s}$  (流量配分図参照) を流下させる河道を整備する。特に流下能力の低い箇所については、上下流バランスを考慮しながら、早期に築堤や河床掘削による暫定的な河道拡幅を行い、全体的な流下能力の向上を図るなど段階的な整備により必要な河積の確保を行う。

護岸は植生の生育が可能な張石や覆土で整備を行い、多様な動植物の生息・生育環境の形成につとめる。改築する取水堰には魚道を設けるなど、魚類の生育環境の維持・改善に配慮する。また、水際は現場発生石材などで多様な水際線を整備し、水棲動物の生息、生育環境の形成につとめる。



(2) 岩瀬川：肱川合流点から 1.5km(新開橋上流取水堰) 地点

延長： L=1.5km

整備内容：

肱川合流点から新開橋上流取水堰の間において、 $290\text{m}^3/\text{s}$  を流下させる河道を整備するため、築堤や河床掘削による河道拡幅により必要な河積の確保を行う。

護岸は植生の生育が可能な張石や覆土で整備を行い、多様な動植物の生息・生育環境の形成につとめる。改築する取水堰には魚道を設けるなど、魚類の生育環境の維持・改善に配慮する。また、水際は現場発生石材などで多様な水際線を整備し、水棲動物の生息、生育環境の形成につとめる。

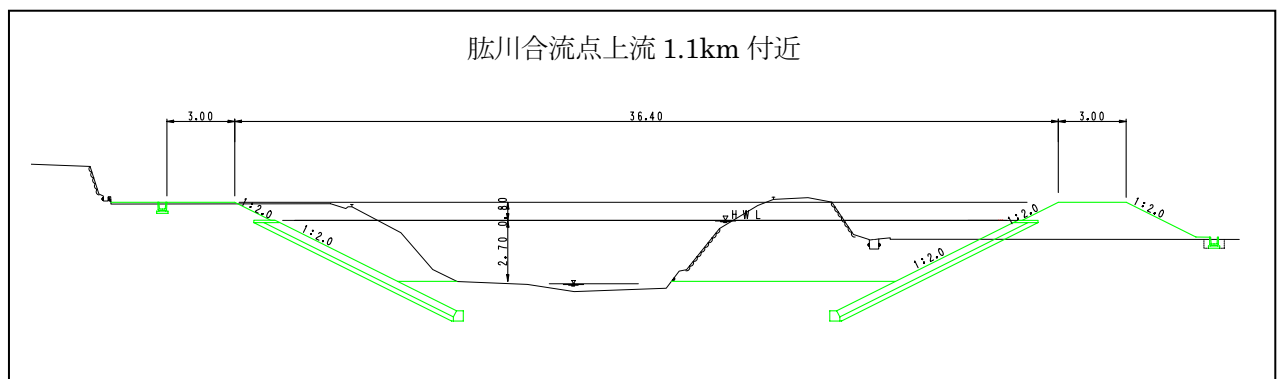


図-12：岩瀬川代表断面図



図-13 : 多自然川づくりのイメージ図 (肱川本川)

### 3.2 河川の維持の目的、種類及び施工の場所に関する事項

#### 3.2.1 河川維持の目的

河川特性や沿川の土地利用を考慮し、洪水等による災害の防止や軽減、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持および河川環境の整備と保全を行うことを目的とする。

#### 3.2.2 河川維持の種類及び施工の場所

流域内の河川においては、河川管理施設及び河床状況を定期的に点検し、危険箇所、老朽箇所等の早期発見および補修を行う。

長期の間に、又は出水により土砂が堆積し、洪水流下の阻害となるなど治水上支障をきたす場合は、環境面に配慮しつつ、河床掘削等の必要な対策を講じる。また、出水などによる河床の低下は、護岸などの構造物の基礎が露出することにつながり、これは災害の要因となるので早期発見につとめるとともに、河川管理上の支障となる場合は適切な処置を行う。

利水者との連絡・調整を図りながら流況および農業用水の取水実態の把握とデータの蓄積を行い、効率的かつ合理的な取水ができるようつとめる。

また、地域住民と協力し、河川美化運動の推進につとめる。

### 3.3 河川の整備を総合的に行うために必要なその他の事項

#### 3.3.1 洪水対策

洪水対策の一環として浸水想定区域図調査を行っており、それを基にしたハザードマップを作成する予定である。また、避難判断水位（神領水位観測所で3.5m）を設定しており、洪水発生時に水位情報をいち早く地域住民に提供することで早期避難を促進し、減災を図る。

普段から地域住民等に対して水防に関する啓発活動を行う等ソフト面の洪水対策を実施する。

#### 3.3.2 流域における河川管理の取り組みへの支援に関する事項

河川整備に関しては、住民の意見を尊重しつつ、関係機関との連携を図りながら実施する。

西予市に対しては、洪水被害を軽減する施策等に必要な資料の提供や、水防活動の支援を行う。

地域住民に対しては、河川愛護の啓発につとめ、河川の維持等に関して積極的な参画を求めていく。